

[成果情報名] カキ「中谷早生」の果実品質特性

[要約] 「中谷早生」果実は8月下旬～9月中旬にかけて、急速に肥大し、着色が向上し糖度が上昇する特性がある。そのため、収穫は果頂部着色でカラーチャート（平核無）指数 5.0 を目安に行う。

[キーワード] カキ、「中谷早生」、「刀根早生」、CTSD 脱渋

[担当機関名] 果樹試験場 かき・もも研究所 [連絡先]0736-73-2274

[部 会 名] 果樹 [分類] 指導

[背景・ねらい]

カキの新品種「中谷早生」（民間育種 2003年8月品種登録）は、本県主力品種「刀根早生」に比べ、早熟であり有利販売が期待されることから、農家の関心が高く産地への導入が進んでいる。そこで、「中谷早生」の果実品質特性を明らかにし、生産指導上の参考資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. 「中谷早生」果実は、8月下旬までは「刀根早生」に比べ小さいが、9月上中旬にかけて急速に肥大し、「刀根早生」並の大きさとなる（図1）。
2. 果実中の可溶性タンニン含量は8月中旬頃までは「中谷早生」が「刀根早生」に比べ高く推移するが、以後急速に低下する（図2）。
3. 「中谷早生」の成熟期は9月中旬で「刀根早生」に比べ2週間程早く、成熟が進むにつれ、着色が向上し、糖含量が増す。果頂部着色でカラーチャート（平核無）値で 5.0 程度の果実では、糖度（brix 値）が 14～15 度になる。脱渋後5日目の果肉硬度は成熟が進むにつれ低下する傾向にあるが、軟果の発生には一定の傾向はみられない（表1）。
4. 「中谷早生」では「刀根早生」の果面に発生する十字型汚損果の発生はみられないが、花柱痕基部の微小孔等の果頂裂果の発生がやや多い（表2）。
5. 脱渋性は容易であり、CTSD 脱渋処理条件は、「刀根早生」同様に温度 25℃、炭酸ガス 16 時間処理後約 5 日で脱渋する（データ省略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本成果は普及、農協担当者の「中谷早生」の生産指導上の基礎資料として活用できる。
2. 果頂裂果防止対策の検討が必要である。

[具体的データ]

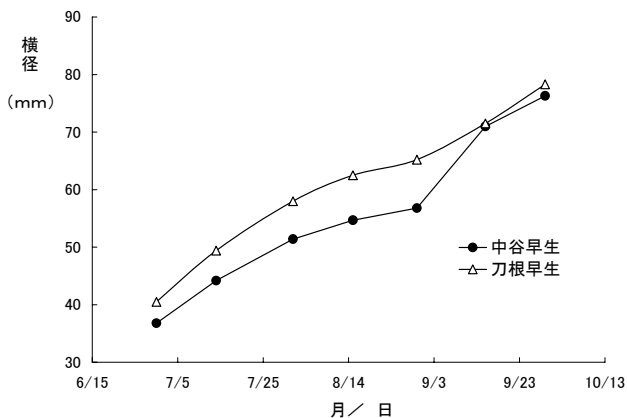


図1 「中谷早生」と「刀根早生」の果実横径肥大の推移 (2005年)

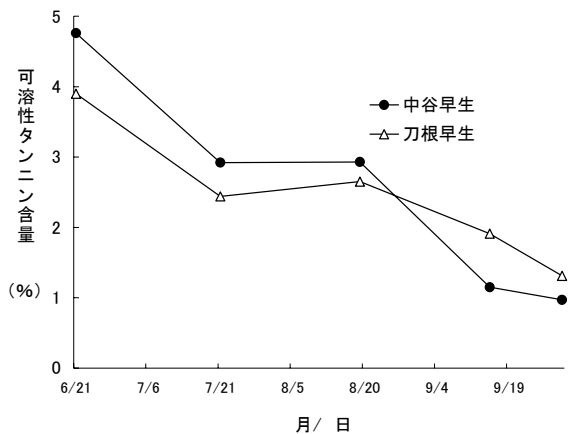


図2 「中谷早生」と「刀根早生」の可溶性タンニン含量の変化 (2005年)

注) 可溶性タンニンの定量は、メタノール抽出後Follin-Denis法により行った

表1 「中谷早生」と「刀根早生」の収穫時期と果実品質(2005、2006年)

年次	品種	収穫日	果実重(g)	果皮色		Brix(%)	果肉硬度(kg/cm ²)	軟果率(%)
				果基部	果頂部			
2005年	「中谷早生」	9月1日	107.9	1.5	2.7	12.0	9.3	0
		9月15日	155.5	3.4	5.4	14.7	4.3	8.3
		9月24日	177.1	4.6	5.5	15.6	3.3	0
2005年	「刀根早生」	9月1日	128.8	1.0	1.5	11.8	11.0	0
		9月15日	161.5	1.5	2.8	13.2	6.9	1.7
		9月24日	195.3	2.5	3.0	13.9	4.9	0
2006年	「中谷早生」	9月5日	133.4	1.6	2.9	12.8	8.3	4.4
		9月12日	166.6	2.5	4.4	14.2	3.8	11.1
		9月21日	200.0	4.8	5.8	15.5	4.8	4.5
2006年	「刀根早生」	9月5日	142.5	0.5	1.0	11.4	12.0	2.2
		9月12日	156.3	0.9	1.6	11.9	11.5	0
		9月21日	190.9	1.1	2.3	13.7	5.6	2.2

注) 調査樹: 「中谷早生」は「刀根早生」8年生に2002年高次ぎ、対照「刀根早生」は同園の同年生樹
各品種1樹3反復で調査
果実品質は、CTSD脱渋処理後、果実を室温25°Cで5日間放置後調査

表2 「中谷早生」と「刀根早生」の果頂裂果および十字型汚損果発生率 (2005、2006年)

品種	果頂裂果率(%)		十字型汚損果発生率(%)	
	2005年	2006年	2005年	2006年
「中谷早生」	3.9	13.0	0	0
「刀根早生」	0.0	0	18.9	0

注) 果頂裂果には、花柱痕基部の微小孔含む

[その他]

研究課題名: カキ「中谷早生」の品種特性調査

予算区分: 県単

研究期間: 平成17年~18年

研究担当者: 和中学

発表論文等: なし

